

2017

認定特定非営利活動法人 **Future Code**

活動報告書



Bridging to the future for global health

2018年 6月4日

Haiti

2017年4月－5月 無料結核検診

2013年6月に開始した住民無料結核検診を本年も開催。

結核ハイリスクの合計110人程を診察することができました。新たに診断方法としてLAMP法を合わせることで結核と即時診断できた人もおり、治療につなげることができ、精度の高い非常に有意義なものとなりました。裏方の仕事としても、患者さんに付き添い検査まで誘導し、確実に検査を受けてもらうなどの細かな努力も欠かせません。

今回もパスカル医師、ジャッセン医師を筆頭に放射線技師、検査技師、事務員を含め皆がそれぞれの役割の中、新たな診断方法を組み込む挑戦をしましたが、日本人とハイチ人が一つのチームとして機能することで成しえた事でありました。今後も定期的な検診の開催を予定しています。



2017年4月－5月 孤児院支援

首都近郊のいままでも訪れている孤児院では、約80人の孤児が生活しています。

神戸市内の飲食店さま等にご協力いただき、設置してあるFutureCodeの募金箱のご支援を、孤児院の求める食料や鶏などに変えて現地に直接届けています。

足りないものは多く、厳しさは変わらず痩せている子供達もたくさんいますが、それでもはじめて出会った震災後のころは小さかった子も今は随分大きくなり、今回は孤児院を代表してお礼の挨拶までしてくれる姿には、スタッフも嬉しさも感じています。

これからも日本とハイチの友好と信頼を、このような小さな助け合いの形であっても、大切にして実直に創っていきたいと思います。



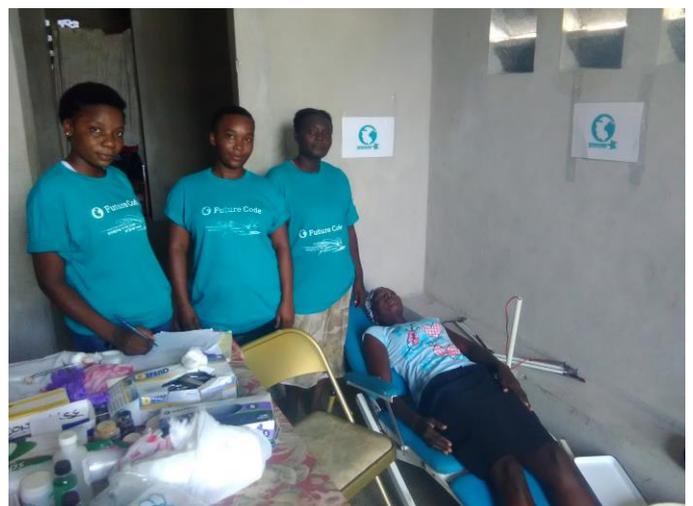
2017年4月 歯科検診

以前から継続して取り組んでいるハイチ小児歯科検診と治療の取り組みですが、今回は首都近郊の複数の孤児院の15名の子どもたちに検診と治療を行いました。



2017年9月 歯科検診

今回はスラムの人々、またそのスラムの周りにある孤児院で働く人々、男女18名を対象に行いました。歯や口の中を清潔に保つことの大切さなどを伝え、大人から子供へ伝えられるよう、少しでも歯の痛みで苦しむ人を減らすために活動しました！



試験的に2年前に開催した結果、多くの孤児院より歯科治療のニーズが届き、以後は定期的に行っております。これからも現地ニーズを尊重しながら現地の子供たちや人々の健康にも寄与していきたいと思っております。

2017年4-5月 ハイチ病院再建支援

2016年10月にハリケーン「マシュー」がハイチに直撃しました。Future Codeの学生部であるBYCSが甚大な被害を受けたジェレミー近郊の都市にある破損した病院を再建するため広報活動、また資金を集めるための活動を行い、無事に再建費用を現地に届けました。

この病院は国の運営するもので、カトリックの神父様が管理者として運営していましたが、ハリケーンの被災から病院が半壊してしまい半年以上に渡り運営ができず、このジェレミーの町近郊に住む住民2万人から3万人が診療を受ける場所は失われていましたが皆様のご協力のもと補修再建しました。この補修再建の感謝を示すという意味でFutureCodeのロゴと日本の国旗を建物に表示していただいています。今後は国と修道会が主体となり、この医療センターの運営を再開していきます。

修繕前



修繕後



Burkina Faso

2017年 7月～ マラリアの予防と啓蒙活動

昨年から開始しているマラリアの予防と啓蒙活動を今年も継続して行っています。6,7月頃よりマラリアを媒介する蚊が増えるのでこの時期からは特に力を入れています。ドア to ドアという手法を使い現地スタッフは一軒一軒、家を回り、蚊帳が適切に使われているか、破けていないかなど、細かにチェック項目を確認していきます。しかしながら、お金の問題などで、蚊帳を持っていない、また破けた蚊帳を使っていた人も見られたため蚊帳(ITNs)の配布も行っております。また、地域の診療所があるにも関わらずその事を知らない人もいたためマラリアになっても適切な処置をしていない人もいました。上記に加え、村にある溜まった水は処分し、必要な水が入っている容器には蓋をするなど、ボウフラが発生しない状況を作ることも並行して行っています。

また、この村では電気等がないので、夜間の巡回では携帯の光を使用していたので、太陽光で充電できる懐中電灯を購入しました。引き続き、現地スタッフと協力し、より細かなサポートができるようより一層の努力をします。



2017年4月～ 水と衛生の改善活動

昨年より開始している水と衛生活動を今年も引き続き行っています。乳児死亡の原因として、マラリアの他には水の衛生環境が悪いことなどからの下痢が大きな原因の一つです。

この地域には上水設備はなく、井戸水を生活に使用しています。

そこで各家庭で飲料水に適した水を選び、さらに水を貯める容器などにも蓋を取り付けるなど、衛生的な状況に保つ事を行っており、住民からも飲み水などがきれいになったと喜びの声も届いています。

また、この地域には適切な場所に衛生的なトイレがなく、これも井戸水を汚染してしまう原因と考えられます。住民からもトイレの建設の要望が出ていたので、まずはトイレを10基、建設しました。私たち外部の者がただトイレを建設して引き渡すのではなく、そこに住む彼らとともに手を借りて建設することで、今後もしトイレが壊れた場合でも彼ら自身の手で修理することもできます。そして地道な衛生指導活動を合わせて続けることで下痢疾患を減らし、乳児死亡率の改善へとつなげます。

このように現地の人と共に現地の問題を改善していけるよう引き続き活動を続けます。

* トイレ建設の様子



* 村の住民への衛生教育やミーティング



2017年7月 水と衛生の改善活動 No2

継続的に行っている衛生のプロジェクトの一環として地域の小学生を対象にゴミ問題をテーマとしたお絵描き大会、お掃除コンテストを行いました。

参加した子供たちだけでなく小学校の教員や保護者を巻き込んで身の回りの衛生環境を清潔に保つ事の意味や、大切さを伝えました。またセレモニーを通して、日本とブルキナファソの交流を深めました。



Bangladesh

2017年4月～ 孤児院診療

継続的に行っている孤児院の巡回診療を行いました。

日本人のご夫妻が運営するエクマットラと言う孤児院に伺い、約 50 人の子どもに健診を実施し、薬での治療が必要な場合には必要な薬剤を提供しました。



ダカ市内の別の孤児院(JT foundation)へ巡回診療を行いました。

それぞれの孤児院の管理体制や、受け入れている子どもたちのバックグラウンドによっても診療が必要な病気も少しずつ異なっており、今後はそれぞれに合わせた診療と治療、アドバイスを効率的に出来るようにデータも蓄積していきます。



2018年1月

孤児院(JT foundation)へ新たに入ってきた子供たちに対して定期健診を行いました。

43名の子供が暮らすこの施設では、これからはこのような健診の提供だけでなく、食事から教育、医療と包括的に生活をさらに改善していけるように取り組んでいく計画です。



2018年3月

バングラデシュで現地ロータリークラブが運営する学校で55人の子供たちの健診を行いました。ほとんどの子供たちは元気ですが、施設周辺の衛生環境には問題も多く、中には喘息やアレルギー、または寄生虫が疑われる子もおり、これに対してもこの施設と連携しながら無料で治療をこれから行っていきます。



2017年4月～ スラムへの母子保健の提供

プロジェクトの調査と訪問診療を兼ねて訪れました。

キングストン病院の一環として、今後私達もスラムの母子の診療をサポートしていく予定です。



2017年6月～ 医療者育成教育 EASTWEST 病院編

新たに看護師・医師の育成教育の場として EASTWEST 病院を担当することとなりました。

主にこの病院では救命救急部や ICU の医師、看護師を中心に能力と機能強化に努めていきます。

初期段階として病院機能改善のための医師、看護師によるチームが作られ、今後そのチームともに当団体のスタッフが講義から実技指導そして現場での指導というようにしっかりとフォローアップし、現地で日本のきめ細やかであり、かつ、適切な看護技術や医療環境を伝えていきます。

診療の効率と効果を上げるために、座学だけでなく、実習・実技授業、例えば機材の配置換えや薬剤の整理を病院スタッフと共にチームとして取り入れじっくりと時間をかけて取り組んでいます。





基礎蘇生術の研修中 1

基礎蘇生術の研修中 2



綺麗に整理整頓された薬剤ボックス



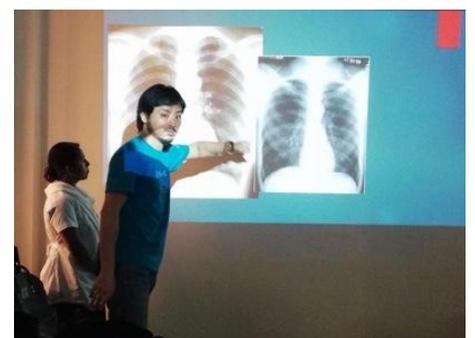
看護師だけでなくドクター1人1人へも救命救急の実技行います。



感染症対策チームに正しい手指消毒を広めるため、Future Code の消毒液ポーチなども作成し、チーム一丸となつての院内の感染症対策を進めています。チーム内の小さな意識付けも大切にしていきます。



生徒の希望に合わせて一度行った講義もリクエストに合わせて再度講義を行うこともあります。写真はレントゲンから見た病態の把握について、リクエストがたくさんあったので、大類が一つ一つ丁寧に伝えました。



2017年6月～ 医療者育成教育 キングストン病院編

医療の届きにくいスラムなどに対しても産科、小児科を中心とした診療を届けるために提携しているキングストン病院にて、プロジェクト開始後、初の出産が行われ、元気な男の子が生まれました。



スタッフの育成も含めた病院の機能改善に努めると共に、臨床におけるサポートも強化しています。一人一人の病気に対しても日本式のきめ細かい診療対応をしていけるよう現地スタッフと共に努力を続け、医療の届かない人々に対しても低価格で診療を受けられるように対応を開始しました。またスタッフの基礎医療、衛生の強化から確認、改善を行なっています。



医療行為前後の手洗いの指導改善指導の様子

また病院の医師や看護師スタッフの努力もあり、産科や新生児の領域ではお金がない人々であっても最低限必要な診療と治療を受けることができる環境が生まれています。

そしてより広く、今まではスラム内で出産していた妊婦さんでも必要時には診療、そして出産までを受け入れられるよう、今のままに留まらず、私たちはこれからさらにこの方針を拡大させたいと考えています。



Japan

2017年11月

神戸グローバルチャリティーフェスティバル 参加

神戸海星女子学院中学・高校で3回目の参加となるチャリティーフェスティバルにブースを出させていただきました。たくさんの方に来場いただき活動紹介をさせていただきました。今回は学生部 BYCS と共に出展。改めて神戸発祥の国際医療団体としてスタッフ一同、身の引き締まる想いですが、これからも誠実な活動を続けていきたいと思っております。



2017年12月

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 参加

高校生や学生のための国際協力のイベントワン・ワールド・フェスティバル for Youth に出展しました。学生部 BYCS 主体となって会場のブースのレイアウトや来場者にどのように活動を伝えるか、苦戦しながらも楽しみながらブースを訪れた人たちに活動を紹介しました。若い世代の方たちに国際協力は短なものだと感じてもらえるよう今後もこのような活動を積極的に行いたいです。



2018年1月

「Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム カリコム若手外交官・行政官」参加

本レセプションにて、各国大使及び未来を担う若手外交官とともに、当NGO理事 青山が出席し、カリブ諸国間との友好関係について交流を深めました。理事の青山から、中前隆博中南米局長に、Future Code の活動をご説明するとともに、支援国（ハイチ）のローカルイニシアチブを重要視しつつ、今後の活動を推進していきたいと考えております。



2018年2月

ワン・ワールド・フェスティバル 参加

西日本最大の国際協力のイベント ワン・ワールド・フェスティバルに今年も出展しました。

2日間でたくさんのお客さんがブースに来てくださり、活動を紹介させていただきました。学生部 BYCS も参加し、彼らの活動を来場者にアピールさせていただきました。このような活動を通じて幅広い世代に Future Code の活動を知ってもらえるようこれからも積極的に参加してきたいと思います。



Future Code BYCS (学生部の活動)

2016年に発足した学生部 BYCS も新たなメンバーを加え活動しております。

ハイチの病院に関しても、メンバーで力を合わせて活動しました。

2017年12月にブルキナファソへ渡航し、現地スタッフとともに活動を行い、現在、現地の特産品（シアバター）を使ったハンドクリームを日本にて化粧品会社とともに開発中。2018年12月末完成予定です。

2017年4月 熊本・益城町へ

熊本震災から1年。BYCSメンバーの中に益城町出身の学生がおり、神戸からエールを送るという意味でその学生と大類で現地に入り、復興の祈りと共にスピーチさせていただきました。



・イベント

2018年1月19日 神戸市外国語大学にて国際協力に取り組む学生団体が集まるイベント「ようこそ～考動する国際人のつどい～」に参加

2018年3月17日 兵庫県ユニセフ協会のイベント「ユニセフのつどい」にてブース出展

2018年3月18日 神戸市立葺合高校にて「フキックス・コルプス スタートアップイベント」に出席し、学生部代表 小野が高校時代を経て、今行っている活動の発表をしました。

講演会・特別講義

2017年5月 藍野大学にて特別講義を担当

大阪の茨木市にある医療系の学部を持つ藍野大学で代表の大類が特別講義を担当させていただきました。将来に医療系の専門職を目指す約200人の学生さんたちに、FutureCodeの活動だけでなく、医療者として途上国への医療支援に臨む姿勢なども含めたお話をさせていただきました。



2017年5月 関西学院大学 社会学部にて特別講義を担当

毎年、代表 大類が担当させていただいております講義を今年もさせていただきました。講義の中では活動についてだけでなく、世界で活動していく中で必要なリーダーシップについても触れてお話をさせていただきました。



2017年8月

昨年も参加させていただいた、岡山県 前島で開催された、高校生を対象とした国際青少年リーダー育成セミナーの合宿に代表 大類が講師として登壇しました。今回のテーマは「平和」であり、国際協力を通じて極度の貧困や、医療の届かない場所にある平和でない場所（構造的暴力と言われるもの）に如何に平和貢献するかや、これからの未来のリーダーに必要な思考と行動力など活動を通して感じてきたことなどが語られました。



2017年11月 流通科学大学にて特別講義を担当

流通科学大学にて代表 大類が特別講師を本年もつとめさせていただきました。私たちの活動紹介に加え、講義のテーマは国際協力の活動を通して「平和をつくる具体的な行動は何か」をメインとし、またこれからの未来に必要なとされる能力とはどういったものか、を様々なデータを元に紹介しました。



その他講演・講義 多数

テレビ・新聞・雑誌等 掲載

・テレビ

2017年4月16日 毎日放送 熊本震災に関する BYCS の活動

2017年8月 バングラデシュ インディペンデント TV (ドイツ資本のバングラデシュの会社で、衛星放送で世界に配信する企業) 「今日のバングラデシュ」 特集でバングラデシュ国内で医療支援活動および医療教育を行う日本の団体として放送

2018年2月27日 毎日放送 (MBS) ニュース VOICE 新たな水浄化で病気を減らすプロジェクトの活動

2018年3月14日 毎日放送 (MBS) ちちんぷいぷい バングラデシュでの水浄化プロジェクトの活動

・新聞

2017年4月17日 神戸新聞朝刊 ハイチの病院再建について BYCS の活動

2017年5月31日 毎日新聞朝刊 ハイチの病院再建について BYCS の活動

2017年10月5日 日刊スポーツ新聞 (東京版) Future Code の活動

2018年3月27日 毎日新聞朝刊 ブルキナファソ シアバター事業についての BYCS の活動

・書籍

2017年10月5日 明石書店から出版されている「バングラデシュを知るための66章 第3版」の第43章 バングラデシュにかかわる日本のNGO という章で FutureCode が紹介されました。

2017年12月 兵庫県立教育研修所より発刊されている月刊「兵庫教育」12月号にグローバル化する社会への対応というテーマについて代表 大類が Future Code で活動する中で感じた事、また英国での留学経験談と共に、これからの「国境」が意味するものについて書かせていただきました。寄稿させていただきました。

